

有屋

出羽陸奥高志小格多く佐渡水發福者等を雇うべく黃金を備え
 まつりあらゆる書記小みちへこじかかりて人馬運びてうとうとひに及ぶ
 まつりあらゆる近見浦の城主三浦兵庫頭世子世兵衛と浦の里老盆置き群山
 立て紅の帽子をもふきてあらゆる姿を女夜とて此棚より出来事聲
 終く嘸ひ立てぬゝ踊りあんふを思ふそれよりあはせを召し唄すてむと曰ふお
 をおもしきがたあふづきぬつゝゆゆむむじご宿物とくら群生をひり
 事おもじめあてほづみうつるゆき夢中ハ女聲して虎子くちゆふにて
 あけつやすみだりとむじとおおきらんとお少子猪子をあさりとおも今も
 盆踊のやうに廻り、浦の城を出でて女たちを十七名をやらかすと監
 と喰ふる花よ人びとぞ折りよとうたすのじる愈々急の女のみ事とらむ
 早速近にあづく久保とお村ありとこ不夜更人までまわらがおひきもぐ地をもくぢ
 あてて地震の如きおどりを度る事あり、とお格のせ相うちとて其村の自正院をう

その禪舎あはれがふくらむてゆきむくにう慮むとせり人の常小屋不毛もむける言
 路の死むるつむるをすきし柄をもとめらる發穴をひて死むるをすきし柄をも
 て事滅つさせざしよし百鬼夜行圖、神鷹の舞を立とすのひじゆじゆの者
 そびれたまうらじ事おきのふを見え近見浦も久保田に夜あたたまつたり
 事ゆき、出格と事を、白室都、アマミヤ、高志、宗陸奥、出格と
 ぞきひくすみやうらあつて、天狗の事と傳はれどあるて山大山姑、
 云と天狗の事、アマミヤをえむ是も格狸をもふすひり格、高志、宗陸奥、出格と
 狸すく狸はうつみをす事ともトアリて、牝牡のあひ世もす
 浪速のあくせくせすはま秋ふす似す、あれどもかひと音を吸ひて
 あきれとぞ鶴うつみれ、鶴もとめくすやめあひ、うじかのひとを敲う
 ウソも、白室都の回禄し少く、ソラニ廣野のあくすく満一ノ夜、程の
 暖鼓をもふ敲く方せもおおむすろ寒くて夜さうりすむゆで、

朴庵

の五日月夜の山中、葛庵もと琴うたひみなし。日がく、猿づみ
て琴しづれ琴ひんぬつみなし。あめいはまくみるも、絶えせ
きやまとし人程をぬきなすと有語りて名るなり。あもしる、葛庵坐
て笛を吹き、うふもあそとよもたゞひふくもあそび。とひく口とて、
其の處ふだうひときほくとて、迷字ではあるが、孤きる、達途奴稱の通す
をとひうの口をすきあるとよきて、尚村ありぬ。あすらいくすじもくし
あゆれば、迷ちくわふくとせむまうけとぞゆうつしむくに氣色うるさく
せあゆむ。佐年金スリモ、埋夷言にて、傍人澤と。埋夷國小其地名アテ、サムキキモ
ヤモキモシミサキの轉音也。秋田、蝦夷人づける地と多く、世雪の中あらわし
毛のあらわしも、あれさん、寒くもあらわし。山内と。夏秋用珍ふと争ひみみ小寒苗と。あ
世あゆむ。佐年金スリモ、埋夷言にて、傍人澤と。埋夷國小其地名アテ、サムキキモ
ヤモキモシミサキの轉音也。秋田、蝦夷人づける地と多く、世雪の中あらわし
毛のあらわしも、あれさん、寒くもあらわし。山内と。夏秋用珍ふと争ひみみ小寒苗と。

上山内村より山内右衛門尉某の桐趾あり。且様田五郎の館の迹、篠の澤とて名の

後ノ久其本苗今五十目の桶口邊も。村の往来する家主を麻呂木柱立て五百ヤセ
と絆し。様田五郎就ひて、天正のころ、其山伏、山伏の住で、其家を
備え様田の館と。其山伏、熊野修行者少て、曲口村小室の榜嚴山圓通寺
と云ふ洞あむ。直言ひて、古昔、松前の大僧院、菩提寺として松前東院多しま
内古衛門尉の寺。佛前大天光通青大禪定門。天正七年八月十五日。とある。大
雲院ノモ、山内古衛門尉の寺。ある。御寺の寶貝物、布衣の所ありの事。ある。
浦梅園と。日記本にて、不つ居る所を、跡す。もと、中、冬至御通を及ぼす。常草小
む並て春南裏の林にて御す。そと、大天魔。そと、魔王神。と。もを齋す。と。あは
太魔の名。雄勝郡の山。在地名。し。うも。きこと。ソ子の名。同秋田郡板原山内も。不
足。又五十日山内を。う。そ考。小遠奈古ハ宇奈吉。續紀廿六卷小寶龜土章
八月乙卯、出羽國鎮狄將軍安信朝臣家麻呂。狄志良須。信因。家奈
吉等。毅日。己等據憑官威久居城下。今此秋田城遂承貳無事。

相原

と名をひきりけし。伊丹、宇奈古や、川井にまつて、住んでいた。松原山内と
五十目山内から、宇奈古の山内へ、こゑあらぬ。蝦夷の名は、今ももろと名のあらず。
書紀天豐財重日是姫（御事）天皇ノ内（御事）みづほしがちとよ。蝦夷五ヶ事。足立
今も、松前西磯小五十日嶋とよ。夷あくべ一酒と。物の餘（よど）か。文字
云々。十有七、十有九と。あるとあると。をす。蝦夷の名とせ。みぢく南部を
木の子を擧（さげ）。早とひそと。同津輕を巡復とひそと。糟（さわら）を櫻尾溝（さくらおの）事と
う。すこい海（うみ）をす。木の子をひそと。七変化の池。あくべの島もうめれども。
中（なか）ふかはせつ。北城山の林葉あくべ。天正のころ。ひづの町並の跡を崩し残す。
田畠の家。大キニ郭をと。それへぐて、中津沒川を流す。アツメ。黒土。せん村居
地を山もみ。黒山。山名。みを。似も無。すすむ。隠す。里
の黒土の石井與高とよ。里長のとよ。久保田の琴葉院。あつて。かくて。

事あつて。方えれど。と。も。く。虫石井の巣。小やと。根。あくべ。く。と。ねを。方えれ
雪の裏。も。志。進す。城石井民。石井縣兵衛尉。其と。と。尙古傳門尉の家。姓あり。ひ
詰（くわ）と。せ。村。伊。差。麻。山。の。尾。小。神。明。社。あくべ。被。差。衣。と。よ。に。在。稻。荷。
神（かみ）と。よ。あ。至。と。と。三。月。十三。日。花。生。盛。祭。一。て。山。内。の。常。樂。院。と。よ。す。め
い。り。人。を。き。あ。と。と。と。と。と。鉢。杜。八。幡。崎。水上。澤。か。と。い。す。え。り。つ。ま。や。瀬。林。鹿
か。と。小。家。ひ。ま。ち。と。あ。ら。ゆ。び。と。雪。ま。と。ぬ。り。山。里。へ。お。が。村。を。と。羽。立。と。と
を。村。の。こ。と。小。鳥。闇。の。ま。の。里。歌。あ。う。追。き。村。ハ。小。倉。湯。殿。淺。見。因。の。温。泉。
大。馬。澤。と。萬。大。馬。澤。小。牡。馬。の。三。河。と。牡。馬。ら。と。牡。馬。の。住。ま。と。女。馬。
は。み。て。牡。馬。も。廢。り。他。ま。う。田。馬。の。今。来。れ。ば。と。こ。と。か。牡。馬。の。毛。を。廢。
そ。の。男。馬。と。か。み。か。う。け。と。と。も。と。そ。こ。は。山。上。大。津。馬。社。あり。と。宣。ハ。オ。斗。
の。二。天。五。才。五。形。鉄。薬。研。の。鐸。の。出。現。と。神。躰。と。大。鐸。明。神。と。躰。と。莫。
甚。急。す。と。ま。い。意。す。か。一。身。と。と。身。も。登。で。見。と。と。と。

相屋

廿日やうの晴のあけ、おもむだ家を、二三日をとすと、紙面に移る。山神祭の
家と、家と小舎、高く、とく細き料と鐘木のよとく作らる。せハヘリて、
料のそれ令を青一て、すこ連架するものて、がく御名うらむをしてす。
水鶴の鳴ゆるに、るこく、安えり、が、散れ、じるのひ、ひらども。

飽くまでもともと、鶴のあそび、夏うらへて、ゆく叩くし
久保田、土崎のみちをひととて、とくとく、うなぐ櫛折（大内うちへいま）の狀
雪ゆく、うで、山越の道をもて、し、とくとく、あくとつれぬり事。

十五日、富田村來る。久村名、松のらうとて、濱栗（イリガシ）と焼く。伊勢國原名郡富田の
郷（アカニ）尾張三河、外ふと多び名、す。姓氏（セイジ）もあり。記、新編東國太平記、
革名盛氏の事。語す。永禄のころ、みちのくの領主、革名修理大夫盛氏と、
かく、革名義廣（ヨシヒロ）と、政宗を追ひ拂もとめ、西へ田、應をめ、とぞいとぞい。

富田平田（ヒラタ）、政宗の屬（ぞく）一けれど、今世で、兩心をけられそむ。即茅（モウ）と、未く
ゆき、多ひ、た、一味、て云（いわ）と見えず。此秋田路（ヒサツル）、革名の家、士のまことく多、又
富田村もその氏の本丸を據る田地の名にあても、此村の高畠（タカタカ）、伊豆管根
の御神を遷して、華師如来社と。四月八日、此山内の山時常寶院が、のし
みと多りして、戲り、ちよと、舊山内圓通寺の開居寺、松原補陀摩毘和尙
勸請して、開祖として、富田山天音寺と。今世一せりて、鉢雄和尚と、まかりと、嘗て、されつ
か。富田儀右衛門と、おぬの、をちにつれ、おもだあつて、いは、おもだ事多え
あり、おもだ田、實丸不滿（スミマツル）と、おもだゆき、年七（ナナ）と、石子を富田のす
がく、民艸（ミナズ）もみならく、小ぢかひも、無御の榮（アラタガタ）も、おもだ祝ひと、歌ひと、おもだよ
一行、あらわし、その包、紙金泥の高野大師の書と、子如来見諸衆生樂と、
一、行、あらわし、その包、紙小説と、あらわし、せらわし、れ。

相屋

めほこしるそと名あらゆのやうぬきの色ふよまじはとお紙
十六日雪ふゆりて宇奈吉山湯暖や、弊具理や、黒ねが、あどひが、はれ
見わぬもと萬のこらせられあさかくけりうきよとむり

あり理じ梅を元のゆりや和まよへ自らこらめら
世屋戸のゆうて先神と、そぞもて雷公とけぞの雷辟、雷壁祭せ、地あれ
水田家をもよそかしめおとえせあうふいとく多くとまよめくへあうを残りな
十九日雪ふゆりとすとあう家の人へもこうも等、日あり、春あ
いとくとくまゆる来ぬせ地山の花も見えまよと、情愛うべにちえす
ちしれぬ海さまも小切の山吹を雪まよ花吹くやゑひ

中津俣川の獨木橋いとあわく渡りて深雪をまよとあわくとさ踏の雪ハシマタマツキ
西三河のあい是とぞて體前タタキの足迹アシナカとぞ家をかく猫のうせあよみ
年佐姫ササヒのゆきとぞめむじきび脚の仇アシガ五、千の仇アシガは、おうとぞせしなら

とほく猿ヤマトホクとすむ喰ヒムクあちゆつて中津俣の經ヨリ縄ヨリ、河の急アツをつゝ袖スリ往
りと南下馬場目川北小浅見内川流く、中津又とまよとまよ、芭森山黒森
嶽カムイ、二瀬小底コトロと一瀬イチロとも山内ミナミの竹簾タケマニ小簾合コトロ、五十日里ハシマタマツキ、馬場目
河マダラと玉流タマリて一日市ヒタチとよより、琴の湖クニノコ海落シマタマ中津又ヒタチ、美濃國ミナミ中津川
洲シマ、俣ヒタチとあよびとしと寒く岸シマも雪シマ東ヒタチとく流タマリす雪シマもりひるゑと
上津瀬アツセやその下シマは雪シマのきつまよと中津俣のあわ物アワモノとも
此處ヒタチ中津又ヒタチ在マジ中津又ヒタチ御ミタチ枝色多ハサカタ、やまくまよハ田村タケマニ、田ヒタチと
井モリ村名多ハサカタ、比八田ヒハタ、仁ヒト田ヒタチ、田大藏タケマニとよもくも石シマ、山根サンゲン小龜角子ヒタチ
のあ小大藤ヒタチ、やうひた森ヒタチの中小ヒタチ、住吉御神ヒタチを齋ヒタチ、とも半夏生ハサウエイ、田祭ヒタチと
をよす、川向ヒタチ、若宮ヒタチ、幡ヒタチの御神ヒタチも御湯ヒタチをその日ヒタチとよとすヒタチ、
市村ヒタチの龜藏院ヒタチと山伏ヒタチの色ヒタチ、長面ヒタチ、此名ヒタチも山本郡ヒタチ岩川ヒタチ在マジ
浦ヒタチ、いとく多く、うど昔ヒタチの書ヒタチ、口ヒタチひとともむすこ河ヒタチのゆうと、小御藏ヒタチ下ヒタチと
圭室

相慶

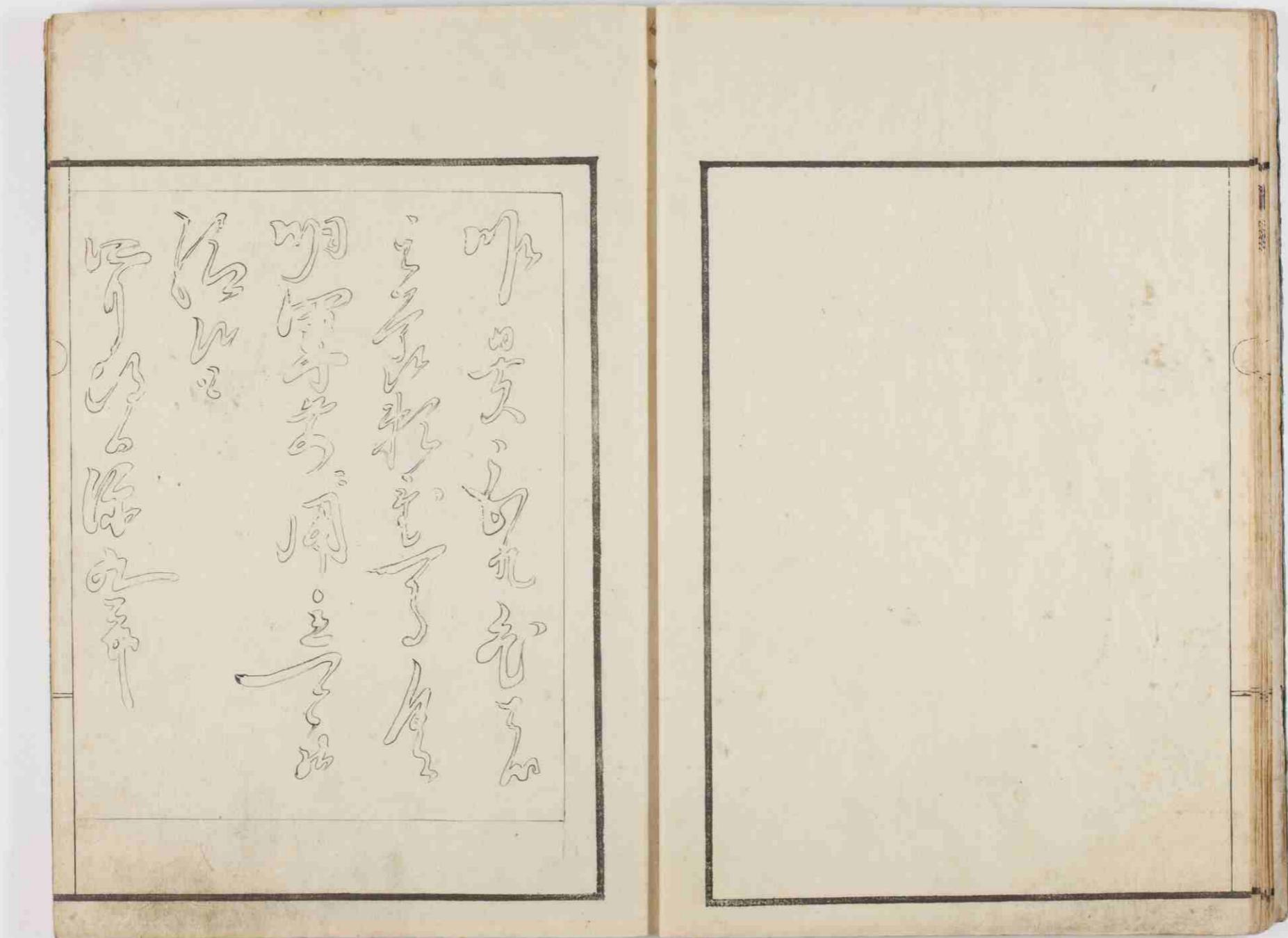
村の墓と村あり市と山あり山あり大神田と山て山
島山の山の杉群木神明社あり山はもうむれり山院
大金坊と山伏あり脇村又來りて山中つ又山名あり山子山して
中津又庄と山藏主權現堂山神社あり寛文延寶のち山も大杉の
山也大蛇もみるが大蛇て七日夜ごとやれうその骨がすを
ゆめりとくちきわらとあらとけりげとあらともせまじつみつうて
そと藏王權現と山多う當てにあらだ木も一木と包みうてある

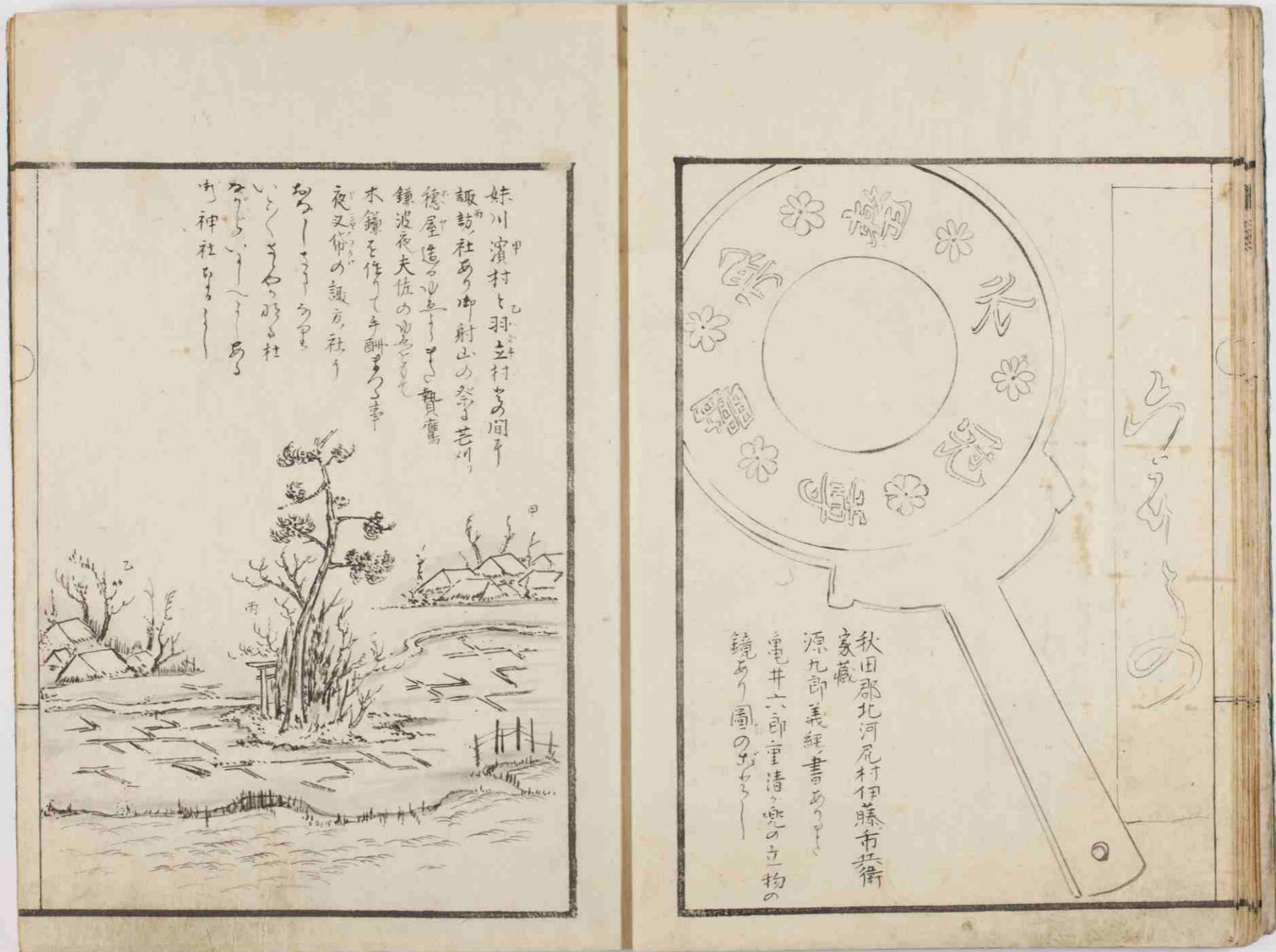




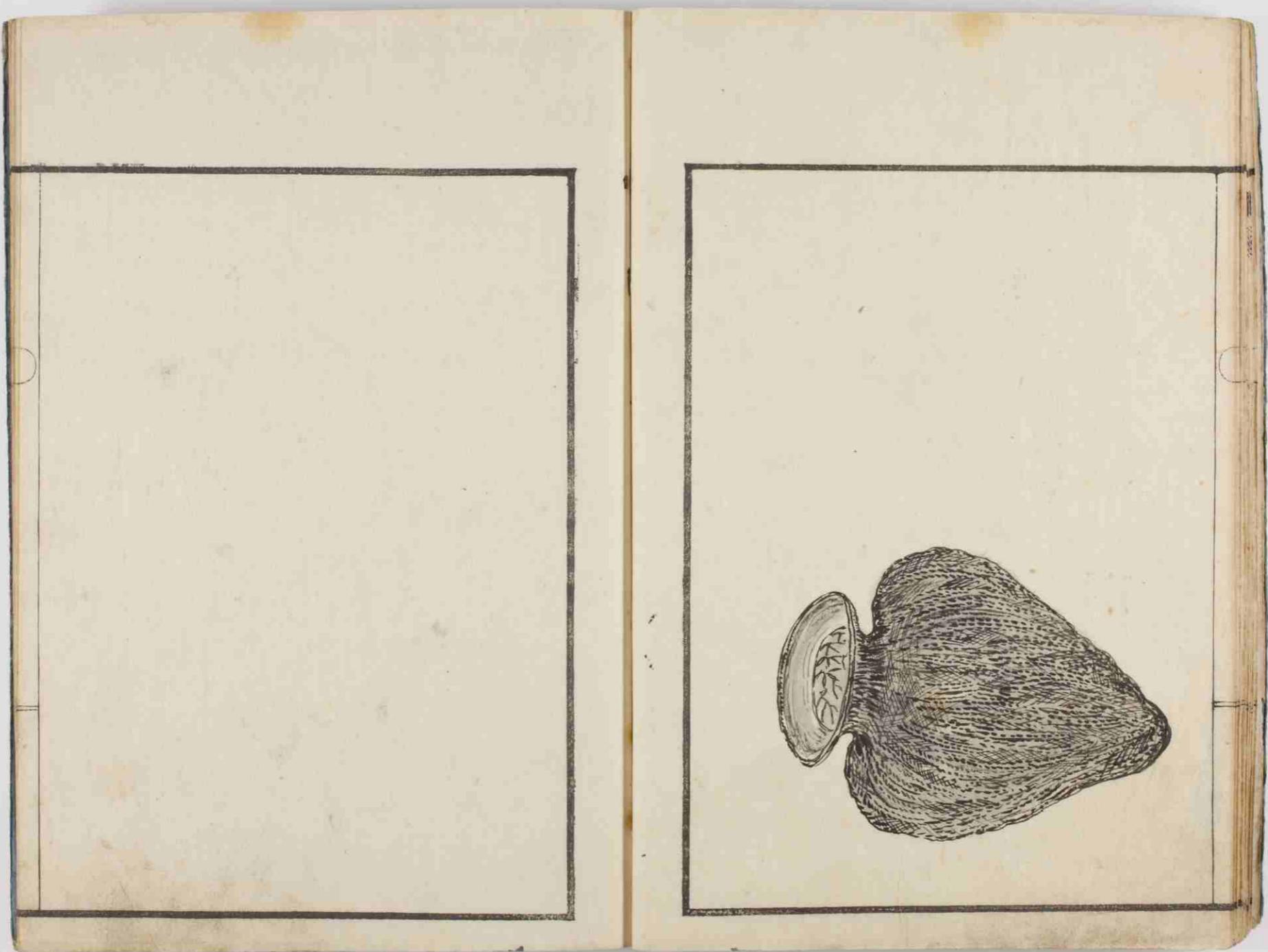
12/21





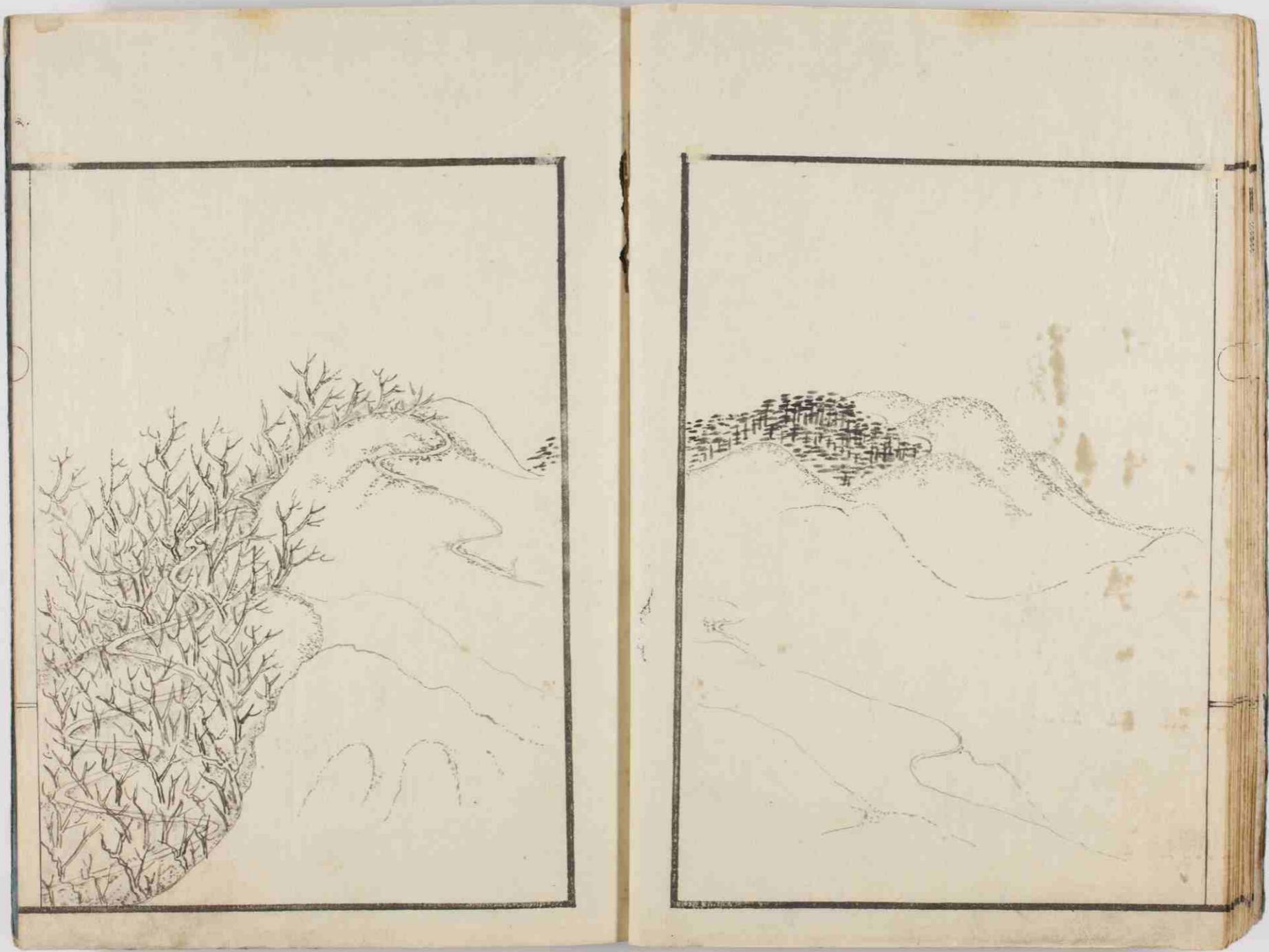


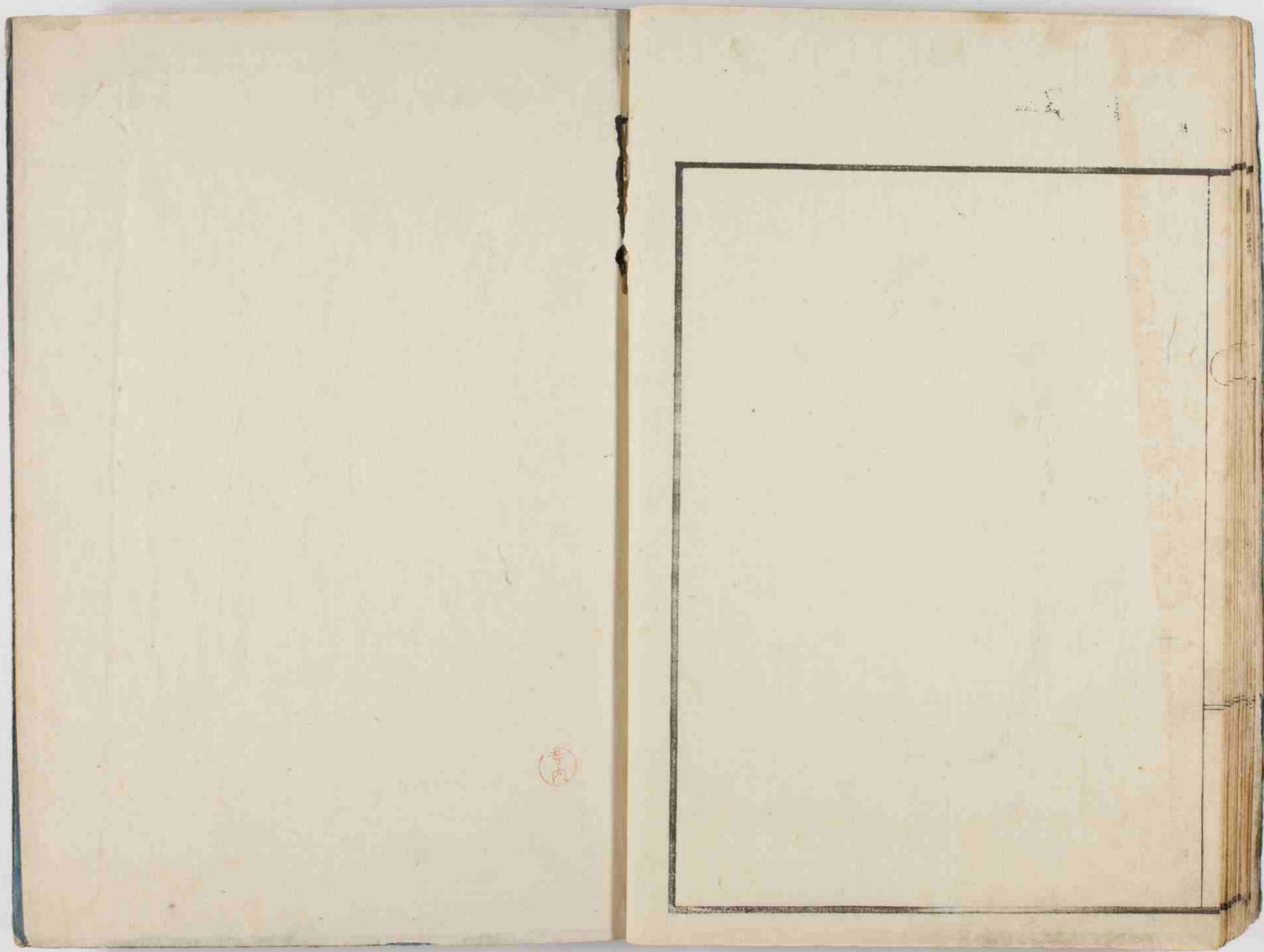












破損あり

21/21

